

主題

介護保険導入後の白十字ホームの10年

副題

共同研究と利用者調査を通して新人職員が学んだこと

介護保険導入

利用者調査

研究期間

20月

事業所

特別養護老人ホーム 白十字ホーム

発表者：君塚 隼・磯見 綾

アドバイザー：鈴木剛士

共同研究者：野口典子（中京大学）・久保美由紀（会津大学短期大学部）

電 話

042-392-1375

メール

hakujuuji@mua.biglobe.ne.jp

FAX

042-392-1255

URL

http://www.hakujuji-home.jp/

今回発表の
事業所や
サービスの
紹介

社会福祉法人白十字会 白十字ホームは昭和42年に開設。定員は182床（うちショートステイ12床）。同一敷地内施設・事業にはデイサービス・病院・訪問看護ステーション・訪問介護・老人保健施設・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所があります。

《1. 研究前の状況と課題》

白十字ホームでは、職員が自らの実践・業務を外部の研究者等を巻き込み振り返ることによりケアの点検を行うことをこれまでに積み重ねている。今回の取り組みもその一つである。

介護保険制度が導入されてから10年が経過した近年、この10年間で振り返り検証する様々な取り組みが行われているが、そもそも特別養護老人ホームに入所してくる人々とはどのような人々であり、またどのようなニーズを持っているのだろうか。このことで、特別養護老人ホームに対しどのような役割が期待されているのか。また入所者のケアのあり方について確認をしていくことにも繋がるのではないかな。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

- ・介護保険制度下で入所してきた利用者はどのような人々であるのか、どのようなニーズを持つのかを調査する
- ・介護保険制度は特別養護老人ホームという現場に何をもたらしたのか。同時に利用者にとってはどのようなであったのかという検証を行う
- ・白十字ホームが積み重ねてきたケアの点検を行い、得た情報を共有することで、よりよいケアを考えるきっかけにする

《3. 具体的な取り組みの内容》

①対象者

介護保険制度導入以降に白十字ホームに入所した利用者（2000年4月～2010年3月末日、計362人）

②取り組みの具体的な手法

- ・入所者ケース記録を基に、介護保険制度導入後の利用者の統計的調査
- ・白十字ホーム利用者に対する個別インタビュー

③取り組み時間や期間

2010年5月～2012年1月

④取り組みの手順

- ・利用者のケース記録より情報を抽出する
- ・抽出した情報を集計し、データ化する
- ・作成したデータを基に介護保険制度導入後の白十字ホーム入所者像を読み取っていく
- ・データ分析を基に、調査報告書を作成する

⑤取り組んだ職員数や構成

新任介護職員5名・相談員1名・外部講師2名

⑥取り組みへの施設のバックアップ体制

- ・月一回の作業日の確保
- ・統計資料作成に必要な利用者のケース記録の提供

《4. 取り組みの結果と考察》

調査報告書を作成することで、この10年間に入所した利用者像をより深く読み取ることが出来た。

たとえば入所時の年齢において、85歳以上で入所してくる人が男性で全体の40%、女性では56.1%いることがわかった。以前に行った調査※1においては85歳以上での入所者は僅か14.2%であったことから、特別養護老人ホームの超高齢化が窺える。

53歳という若さで入所してくる人もいれば、101歳という超高齢で入所された人もいた。様々な年齢層の方が生活しており、それぞれの年代ごとの生活歴やニーズにも合わせたケアが必要とされていることがわかる。

《5. まとめ、結論》

利用者調査を通して、改めて私たちが現在対面している高齢者について考える機会を得た。現代の特別養護老人ホームにおける個別ケアの重要性の再確認と共に、自分たちが日常で行っているケアについての見直しもすることが出来た。

共同研究者として関わって下さった先生方には、一人ひとりの情報を得たうえで統計的に、広い視野で施設全体を見ることも、個人を理解するのと同様に大事と教えて頂いた。またデータの見方、使い方、それを文章化する難しさも、この研修を通して感じた大きな課題であった。

そして新人職員5人の仲間意識が強くなったことも大きい。先が見えず躓くこともあったが、同じ目標を持った仲間と支え合えたからこそ乗り越えられた。今後も、仲間の存在が心の支えになっていくだろう。

今後は、白十字ホームが提供してきたケアについてより詳しく追っていくために、白十字ホームにおける委員会活動の歴史の調査を行っていく。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、同意を得た。

《7. 提案と発信》

今回の取り組みは、介護保険制度導入以後の白十字ホーム入所者の心身の状態や生活状況の変化の動向調査であり、施設のケアを振り返り、白十字ホームに期待されている役割とケアのあり方を職員が考えるきっかけ作りである。利用者の生活の質の向上のため、この役割の重要性を認識し、実践することが大切である。

※1『開設30周年 白十字ホームにおける高齢者ケア ―その実践と課題―』（1967年～1996年）